

猛暑期の県消防大会開催に疑問の声続出

第70回新潟県消防大会が上越市で行われました。上越市での開催は6年ぶり。今年も昨年同様、強烈な暑さの中でポンプ操法競技などが行われました。

私が出たテントの中は時折、風が入ってきましたが、競技中のみなさんやスタッフのみなさんの多くはアスファルトの上、大変だったと思います。

今回の大会も、猛暑の中での開催となったことから、インターネット上では、上越市消防団員スタッフが酷暑の下、送迎の挨拶、道案内をしていることや競技会の開催時期などをめぐって疑問の声が続出しました。私のところにも「もうちょっと気候の良いときにやったほうが(いいのでは)」「命に関わる重要なこと。何かあってからでは遅すぎます。温暖化が進む昨今、人命優先で議会で取り上げ

て欲しい」などの声も寄せられました。

今回は朝8時半からの開催へと改善されたのですが、猛暑の時期では午前も午後も変わらぬ暑さです。大会の持ち方、考え直す必要があります。議会などでとりあげていきたいと思っています。



猛暑の中、ポンプ車操法競技をする消防団員(後方)と後片付けをする大会スタッフ(団員・手前)

広島平和記念式典へ 市内中学生8人派遣

8月6日、広島で平和祈念式典が行われました。

今年度、上越市は、事もあろうに行政改革の一環として、中学生派遣数をこれまで24人から8人に減らしました。その結果、今年度は城北、雄志、直江津、東、安塚、牧、頸城、板



【オトギリソウ】オトギリソウ科の多年草。漢字で「弟切草」と書きます。花言葉は「怨み」「秘密」、きれいな花なのにかわいそうな花言葉ですよね。草丈は20センチ〜60センチほど。いま山野で黄色い花を咲かせています。ヨモギと同じく血止め草として利用されます。写真は8月上旬、吉川区代石にて撮影。



広島平和記念事業に参加して

(平成28年度の記念式典に参加した牧中3年生一当時一のSさんの感想文です。私の6月議会一般質問の中で紹介させていただきました)

私にとって戦争は詳しく知らない、過去に起きた出来事です。戦争の学習を何度もしましたが、実際に体験したわけではないので、戦争は、現実味の薄いものでした。

私が今回の広島平和記念式典派遣事業に参加した理由は「戦争というものを深く知り、平和への思いを深めたい」と心から思ったからです。そして、この経験を通して私の戦争への認識は本当に大きく変わりました。

資料館の中を見ると、肌の焼けた人、影だけを残して消えてしまった人、放射線の影響で白血病などの病気を発症し命を落とした人、まだ幼い子供、焼け野原になった広島街。

たった一瞬で、街が消滅し、何十万もの人々の命が失われたのかと思うと、核の恐ろしさを改めて感じる事ができました。遺品からは、その地獄の光景を目の当たりにした人たちの悲しみや苦しみ、怒りが伝わってくるようでした。

私は原爆の恐怖を甘く考え過ぎていました。何も知らないまま、毎日をただ普通に生きていました。この何気ない日常が実はとても尊いものだということ

とを広島に行くまで気付くことができませんでした。

その中でも、私が一番心に残った言葉があります。それは被爆者三世の小学生の女の子の言葉です。

「私は友達と遊びたいから戦争は起きてほしくない」というものでした。

七一年前のあの日も、この女の子と同じくらいの子供がいたと思います。そして、この子と同じようなことを思っていたかもしれません。私たちと同じ年頃の子もいたでしょう。その子たちには夢があったはずで、将来への希望もあったはずなのに、それも破壊されてしまった。こんな悲劇を、地球上でも二度と起こしてはならないと心から思いました。

これからは戦争を知らない私たちがこの国の未来を担っていくこととなります。戦争を体験された方に直に話を聞ける機会は、だんだんと少なくなっていくと思います。私は戦争というものを、被爆者の苦しみや切なさや思いを、次の世代に伝えていかなければならないと思います。平和の尊さ、核のない世界、ヒロシマの願いを実現させるために、私たちが次の世代へ思いを繋げていくべきだと思います。

今回戦争や原爆の事を現地で学習して、私は自分の認識と現実との差がありすぎることに慄然としました。ヒロシマで学んだことを心に留め、平和な世の中が続くことを信じながら、一日一日を油断せず生きていきたいと思います。

はしづめ法一の 活動レポート

No.1921 2019.8.11
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ
 「ホーセの見
 てある記」は
 ← こちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五六九回 風鈴

チリンチリンチリン。柿崎区直海浜の光徳寺で開催中の「作品展」を観に出かけたから、この音が出迎えてくれました。

いうまでもなく音は風鈴です。風鈴は屋根下でもなく、廊下でもなく、本堂に入る階段のそばの、樹齢二〇年くらいの木の下の鳴っていました。

風鈴は、直径三センチ、長さ約一センチのくねくねした流木(?)に下げられていました。高さ三〇センチほどのところですよ。でこぼした幹の形状、皮のはげた状態から見て、木は百日紅か夏椿だろうと思います。

風鈴は三個。うち、赤い朝顔が描かれたガラス製のものが一個、金属製のものが二個ありました。いずれも風に吹かれてチリンチリンと軽やかな音を奏でていました。

私はしばらく、この風鈴のそばで音を楽しみ、風を感じながら涼みました。

じつは、最初、これらの風鈴を「作品展」の展示の一つだとは意識していませんでした。展示作品はすべて本堂の中にある、そういう先入観があったのです。

展示作品だと意識したのは少し経ってから。考えてみると、風鈴と風は一体でなければなりません。風の通り道におくことが音を出すためには必要条件です。いま一つ、陽射しによっては、そばの木の幹や葉が地面に映し出され、そのなかで風鈴も動き、鳴るといふ小さな絶景空間をつくりだすことも可能です。まさによく考え抜かれ、美的なねらいをもった作品でした。

本堂に入って一礼した後、作品群を隅から隅までゆっくりみせたいなと思いました。

「作品展」は今回で一〇回目。「みんなのお寺のみんなの作品展」としてアピールしていることもあって、多くの人に観てもらいたいと、柿崎区内外の人たちが作品を出していました。私が感動した多くの作品

のなかから三つだけ紹介しましょう。

四角形のケースに入った〇さんの水差し。作品の表面は先日、私が出合ったマメコガネの背中緑と同じ色のタマムシの羽で作られていました。そこから放たれる「不思議で怪しい光」、まさに自然界ならではの魅力的なものでした。

これは一体なんだ、と思ったのはSさんのステッチです。裁縫や刺繍などでの縫い方、縫い目の美しさをとりあげた作品は、身の回りに、これまで気づくことのなかった美の世界があることを教えてください。

名曲、「イマジジン」を生んだロンドンの「アスコットの館」の模型のそばには赤色などの三つのバッグがありました。若くしてお連れ合いが脳内出血で倒れ、長年にわたって闘病生活を支えてきたKさんの作品です。丁寧に編んでありました。「よく頑張ってきたね」と声をかけたくなります。

作品を観てすこし経ってから、ご住職と坊守さん、ご住職の友人の方たちとお話する時間がありました。

この中で、「Yさんがいないとさびしいね」という話が出ました。これまで「作品展」の盛り上げに努力され、今年七〇歳で亡くなった人です。山がたいへん好きで、ご住職の同級生でもあったくろかわ診療所の原先生のこと話題となりました。

そして、帰り際のことです。風鈴を使った木工作品の制作者、Mさんのことを聞いたのは。じつは、Mさんのお連れ合いは西野島出身で、七月に五八歳で亡くなったばかりだったのです。じーんときました。

この日、本堂入り口の風鈴の音は途絶えることがありませんでした。チリンチリンという音は、涼しさを感じさせてくれます。そして、人のやさしさも……。あなたもこの風鈴の音を聴いてみませんか。

今年も新井柿崎線の現地調査実施



県道新井柿崎線整備促進議員連盟は1日、市民の皆さんから歩道設置や道路の拡幅、防雪柵設置などの要望が出ている箇所を現地調査し、県上越地域振興局と意見交換しました。

当日、振興局の維持管理課長などから、「側溝整備要望は上越妙高地内だけでも80か所出ている。電柱移動、用地確保など協力を得られれば整備の優先順位が上がる」「歩道整備は通学路が優先となっている」「この路線はどこをとっても地吹雪がおこる。防雪柵は毎年1億円くらい投じて、200メートルくらい整備している。内雁子のところはあと数年かかる。くびき駅の北側だけ、割り込みで調査を入れた」などの説明を受けました。(写真は新潟区内雁子地内での視察風景)

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月31日(水)	8月11日(水)
上越南消防署	0.050	0.047
上越北消防署	0.050	0.047
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.043	0.053
頸南消防署	0.067	0.057
東頸消防署	0.053	0.053
高士分遣所	0.043	0.050
名立分遣所	0.053	0.057



市内各地で夏まつり開催

3日、4日は柿崎、吉川、三和、頸城、浦川原、安塚などで、それぞれ持ち味のある夏祭りが開催され、多くの人の参加で賑わいました。イラスト(橋爪作)は越後よしかわやったれ祭りでの踊りの風景です。